教育力開発コース「授業実践の振り返りシート」 記入例

作成者：＿教育＿学部 氏名＿徳島 太朗＿ 授業名＿大学の未来を考える＿

◆作成した「シラバス」、「授業計画書」、実施した「学生アンケート」の結果を見ながら当てはまる☐に✔を記入してください。

項目	自己診断	FD 委員確認欄	実践の振り返り・学生の意見を踏まえての感想・改善すべき点など	教育改革推進部門に相談したいこと
1.授業設計 作成したシラバスについて	**授業の目的について** ☑学位授与の方針（DP：ディプロマポリシー）と授業との関連が記載されている ☑学生を主語として記載されている ☑授業が DP を達成するためになぜ必要であるかの存在意義が記載されている **授業の概要について** ☑学部、または学科のカリキュラム上の位置づけが記載されている ☑授業の実施形式、アクティブ・ラーニングの実施などの授業方法が記載されている **授業の到達目標について** ☑学生を主語として記載されている ☑学生が身に付けることができる能力を、学生自身がイメージできるように具体的に記載されている ☑目標を一つ一つ独立させて記載されている（一つの文に一つの目標が記載されている） ☑目標を表わす動詞は観察可能な行動で記載されている **授業計画について** ☑目的・目標との整合性がとれている ☑授業時間外にどのような事前・事後学習をするのかが具体的に記載されている **成績評価方法・基準について** ☑評価の機会や方法は複数で記載されている ☑評価の方法と期限、実施時期が記載されている ☑評価の配分割合が記載されている ☑評価の基準が記載されている	☑ ☑ ☑ ☑ ☑ ☑ ☑ ☑ ☑ ☑ ☑ ☑ ☑ ☑ ☑	学生がこの授業を履修する意義を示していたが、学生の将来必要となる技術との関連を記載していなかったので、それを踏まえて、授業の目的を書き直そうと思う。 授業にグループワークを取り入れていたが、学生の前提知識を考慮すると、講義と演習で、理解を促した方がよいと感じた。 実際の授業では、知識の修得に関する目標しか立てていない。ただ、実際は知識の統合や評価に関することは必要だと思っており、その目標を書き加えたが、学生にとって分かりやすい表現になっているとは言えない。来年度のシラバス作成までには最後考えて、同僚の教員に確認してもらおうと思う。 小レポートの評価について、評価の観点とその評価の割合を学生に示していたが、基準も示しておこうと思う。	来年度のシラバス登録の前に、シラバスの案を見て頂き、修正する箇所がないか指摘してほしい。 学生に予習するように指示をしても、実際に予習を行っている学生は数人しかいないように感じるため、学生に授業外で学習させるための方法を教えてもらいたい。
2.授業実施 作成した授業計画書について	**授業の到達目標について** ☑1 回分の授業で達成可能な数の目標が具体的に記載されている ☑目標を一つ一つ独立させて記載されている（一つの文に一つの目標が記載されている） ☑目標を表わす動詞は観察可能な行動で記載されている **授業計画について** ☑導入・展開・まとめで構成されている ☑口頭での説明だけでなく、必要に応じて、板書・スライド・教科書・教材などを活用している ☑終始一方向的な解説のみで終えるのではなく、学生の能動的な思考や参加を促す工夫がなされている	☑ ☑ ☑ ☑ ☑ ☑	20分程度の間隔で、私が解説した内容を自分でまとめてノートや資料にメモする時間をとっているが、その時間に何もしていない学生が 1/3 程度いる。何らかの工夫が必要だと感じるが打開策が見つからない。	学生の集中力を高めるための授業設計の仕方に関するような FD や書籍などの情報があれば教えてもらいたい。
3.授業評価・改善 実施した学生アンケートについて	**学生の把握について** ☑学生の授業に対する理解度（学生の自己評価）を把握することができた ☑学生が授業で学んだこと、身に付けたことを把握することができた ☑学生の授業に対する要望や意見を把握することができた	☑ ☑ ☑	教室の後ろからではスライドの下の部分が見えていなかったことに気づいた。スライド作成の際には気をつけたい。	

「授業における授業における計画、実施、評価、改善のプロセスが実践できているできている」ためには、すべての項目に✓が付けられている必要はありませんが、✓がない項目については、どのように対応するか（考えている改善案または相談したいことなど）を記載してください。

青字：作成者が記入
赤字：FD委員が記入

4.FD 委員の承認	授業における授業における計画、実施、評価、改善のプロセスが実践できているきているといえる ☑	＜FD 委員からのコメント＞	授業設計ワークショップで確認した内容を踏まえて授業の計画ができており、学生が授業に参加し、授業時間外での学習を促すような工夫ができている（シラバス、授業計画書より）。また、自身の授業でうまくできている点と課題を把握しており、今後どのような改善を行うべきか、どのような支援を求めるべきかが明確に示されていることから、授業における PDCA サイクルが構築できていると判断できる。	＜FD 委員署名＞ 教育学部 FD 委員長 四国　三郎

※授業実践の振り返りの際に使用する「シラバス」、「授業計画書」は**教育力開発コースのみで使用する**ため、実際の授業のシラバス等を適切に修正しても問題ありません。ここで**修正したシラバスを作成者及び学生に開示することはありません**。

※シートの記載において不明な点や、どのような改善が望ましいか、どのような改善方法があるかなどの**お問い合わせは、教育改革推進部門まで**ご連絡ください。